

「新たな高校教育に関する指針」の見直しと地域の実態に応じた
高校づくりの実現を求める意見書

北海道教育委員会は、道内における中学生の卒業生数の減少に伴い、「新たな高校教育に関する指針」に基づき「公立高等学校配置計画」を決定し、高校の再編・統合を進めています。

「新たな高校教育に関する指針」では、全日制課程において4～8学級が望ましい学校規模とし、小規模校の取り扱いとしては1学年3学級以下の高校は、原則として、再編整備を進め、望ましい学校規模となるよう近隣高校との再編をするとしています。

北斗市には、函館水産高校、大野農業高校、上磯高校と職業高校が2校と普通高校が1校あり、それぞれの高校が特色のある学校づくりに取り組んでいるところでありますが、北海道教育委員会における「新たな高校教育に関する指針」からすれば、上磯高校が再編整備の対象となると思われます。

今、中学生の進学志望は普通科志向が多くなっていることや、経済状況が不安定な中で、経済的な事情により都市部への通学が困難な家庭の受け皿としても、上磯高校の役割は大きなものであります。

「新たな高校教育に関する指針」の考え方では、地方における高校の存続は、皆無となり、都市部へ一極集中ということになります。

地方における高校の役割は、地元の子どもを受け入れることはもちろんであります、地域経済、地域振興を図る上でも大きな役割を担っています。

以上のことから、「新たな高校教育に関する指針」の抜本的な見直しを行い、「公立高等学校配置計画」を策定する上で、地方における小規模高校の優先的な再編整備を進めることを止め、一方的な計画策定は行わないことを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年9月17日

北海道知事様
北海道教育委員会委員長様

北海道北斗市議会